

(研究用)

当院は下記の研究を実施しています

課題名 AML-05 および AML-P05 臨床試験登録症例を対象とする
小児急性骨髄性白血病における癌関連遺伝子の解析

研究の目的・意義

この研究では、小児急性骨髄性白血病の患者さんのうち、日本小児がん研究グループ 血液腫瘍分科会の多施設共同研究である AML-05 と AML-P05 臨床試験に登録された患者さんの、白血病細胞で認められる遺伝子のメチル化異常を詳しく調べます。それがわかると、将来的に、診断や有効な治療法の選択に役立ちます。

小児白血病は、遺伝子の異常やメチル化などのエピゲノム異常によって起こる血液のがんです。小児急性骨髄性白血病に関わる遺伝子のメチル化異常を調べ、白血病発症のメカニズムを明らかにすることで、将来の治療の層別化や治療の標的に関わる異常を探ることができます。

白血病は、骨髄性とリンパ性の2つの種類に大きく分かれます。急性骨髄性白血病は、リンパ球以外の白血球や赤血球、血小板の元になる骨髄球が由来のがんです。急性骨髄性白血病の原因となる遺伝子異常やエピゲノム異常にはさまざまな種類があり、いろいろなタイプに分かれ、タイプの違いによって、どの治療法を選ぶか、また、お薬(あるいは治療)がどの位有効か、が違ってきます。これまでに遺伝子異常の解析が行われてきましたが、正確な診断やより有効な治療を行うために、メチル化異常などのエピゲノム異常についての解析を行う必要があります。

研究の方法

全国の診療施設で「小児急性骨髄性白血病」の診断を受け、「日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)における小児血液腫瘍性疾患を対象とした前方視的研究」への参加を同意され、「試料保存に関するお願い(研究利用を目的とした試料保存)」に同意をいただいた患者さんのうち、AML-05 および AML-P05 臨床試験に参加された患者さんを対象として、保存させていただいている試料(DNA、RNA、細胞)を使わせていただき、白血病細胞のもつメチル化異常を詳しく調べます。すでに保存させていただいている試料だけを利用する研究で、再検査や費用負担など、患者さんに新たに何かをお願いすることはありません。患者さんの氏名などの個人情報は一切使いません。

研究実施機関

遺伝子解析施設: 国立成育医療研究センター(小児血液・腫瘍研究部) 大木健太郎

HPIにて概要を掲載 <http://www.ncchd.go.jp/>

ご自身が該当するかもしれない、と思われる方(およびその保護者の方)で、この研究にご自分(あるいはお子さん)の保存検体を使用されることを拒否したい場合には担当医にご連絡ください。もっと詳しく知りたい場合や、該当するかどうかよくわからない場合でも、担当医に申し出ただけであれば、研究責任者に連絡をとって、確認をするなど、対応させていただきます。